

簿記

—企業の経営内容を数字でつかむ—

—年間60万人の受験者—

簿記検定試験の年間受験者数は、大学入試センター試験を上回る規模で、ここ数年、受験者も増加し、平成19年度の受験者が60万人を超えるなど人気資格だ。一昔前は、「簿記の知識は経理担当者が知っていればよい知識」との評価だったが、最近では、「ビジネスマンであれば、業種、職種を問わず、必須の知識」として、企業からも高く評価されている。簿記は、日々の経営活動を記録・計算・整理して、経営成績と財政状態を明らかにするスキルで、企業の経理事務に必要な会計知識や財務諸表を読む力、基礎的な経営管理能力や分析力を身につけることができる。費用や収益率を意識した仕事ができ、取引先の経営状況を把握できる。

また、多くの企業が社員に対して簿記の3級、2級の資格取得を奨励しており、一部の企業では、昇進・昇格の基準に採用しているほか、入社までに簿記の資格を義務付ける企業もあるなど、就職・転職・昇進などにも強い味方だ。さらに、簿記検定試験の合格を、推薦入学の出願基準とする大学や、授業の単位として認定する大学もある。一方、1級の合格は、税理士の受験資格となることから、税理士や公認会計士等の税務・会計の専門家を目指す場合にも必須の資格であり、ステップアップできる級体系となっている。